



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成30年11月5日 NO. 113

たどり来て、未だ山麓

30日(火)、午前11時、地域や保護者の方が体育館前に集まり、交通要所に案内板をもって立つための最終打合せを行った。ちょうどお昼時の案内とあって申し訳なかったが、仕事の休暇を取られ、県下各地からの参加者を温かく迎えたいというその思いが本当にありがたかった。受付業務や湯茶の接待等のPTAの方たちもそれぞれ持ち場につき、いざ準備万端、整った。

午後0時過ぎ、志民調査官が予定より少し遅れて本校に到着。校舎職員玄関でお迎えし、挨拶を交わした後、会議室に案内する。しばらくすると、教育委員会関係者が続々と到着。校長室や家庭科室等に次々に誘導し、にわかに動きが慌ただしくなった。

午後1時15分、オリエンテーションを開始。八代市や本校の特徴を紹介するとともに、研究の概要、そして授業の見所などを金井先生が説明した。会場は、二百人を超える参加者たちで埋め尽くされていた。昨年、一昨年まで本校に勤務していた職員や県下各地から駆けつけた懐かしい友人たちの姿もあり、なんと一番遠い人は山口県から参加した人もいた。



午後1時35分、公開授業開始。来賓を誘導しながら2年1組の生活科の授業から参観したが、子どもたちは緊張することなく、普段通りの姿で授業に参加していた。4年特別の教科 道徳では、「宝暦萩原堤」を公開。4年生たちは現地を訪れた体験から、稲津弥右衛門の行なった仕事のスケールの大きさを実感している様子が伺えた。3階へと上がり、6年2組の道徳科を参観。心のバロメータで自分の考えを表し、植柳校区以外の人に盆踊りの口説きを依頼することの是非について議論を深めていた。最後に、6年1組の総合的な学習の時間を訪れた。八代妙見祭をPRしようと、ポスターセッションを行っていた真っ最中で、作ったポスターを誇らしげに発表し合っていた。

午後2時30分から道徳科と生活・総合の二つの分科会を会場を別にして行い、授業に対する様々な質問や意見が途切れることなく飛び交っていた。

午後3時25分、アトラクションとして植柳の盆踊を披露。初めてみるという人も多く、体育館内が静まり返る中、口説きの子どもたちの透き通るような声と、踊り手の「チョイ、チョイ」という囃子言葉が響き渡っていた。その後、研究主任による2年間の研究内容や成果の発表、研究協議、志民調査官のまとめと続き、教育長の謝辞をもって研究会の全日程が幕を閉じた。まさに、本校職員はもとより、保護者・校区、教育委員会等と一緒に創り上げた研究発表会だった。



将棋の棋士の舛田幸三氏が、昭和32年、将棋界史上初の三冠(名人、王将、九段)の制覇を成し遂げた時に言った言葉が、標題の「たどり来て、未だ山麓」である。一生懸命修行して、あるところまで来て、もう登り切ったかと思ったら、まだ、山の麓、道半ばだったことに気づく。教育という仕事や研究実践に終わりはないわけで、今の自分たちに満足することなく、次の課題に向けて一步を踏み出していかなければならないことを教えてくれる言葉である。研究発表会は終わったが、伝統文化教育のさらなる充実に取り組むことが、会場に来ていただいた方や、協力していただいたすべての人に対する返しとなることを共通認識としたい。